

## 長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	068	—	事業名	老人憩の家事業	担当部課	福祉部長寿課		
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち			会計区分	一般会計		
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～			予算区分(款 一 項 一 目)			
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち			3-1-2 老人福祉費			
	法定受託事務の有無	—						
	その他(関係計画、要綱等)	✓ 長久手市老人憩の家の設置及び管理に関する条例						
	事業開始の背景、経緯等	地域の高齢者の交流、憩いの場を設置し、高齢者の心身の健康の増進を図るため老人憩の家を設置した。						
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 地域の高齢者の交流、憩いの場として、適切な環境整備、運営管理を行う。						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の満60歳以上の市民						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 施設を広く活用してもらうことで地域での交流を深めてもらう。						
	事業を構成する事務事業(B票)	① 老人憩の家管理事業	改善・見直し	④				
	②		⑤					
	③		⑥					
コスト推移	項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
	事業費(A)	千円	予算	2,412	2,265	2,286	2,228	2,105
			決算	2,067	1,770	1,798	1,674	
	人件費(B)	千円	決算	671	764	805	585	
総コスト(A)+(B)	千円	決算	2,738	2,534	2,603	2,259		
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
	A 施設利用者数	人	目標	4,500	6,000	6,400	7,000	7,500
			実績	6,013	6,408	7,177	7,602	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 市内の老人憩の家(7施設)の利用者数。(前年度実績を元に目標を設定)								
B								
C								
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様の施設を設置している。							
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 目標値を達成しており、高齢者の交流、憩いの場として活用されている。						
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 地域によって施設の利用率に差異があるが、高齢者の交流、憩いの場として活用されている。						
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 地域によって施設の利用率に差異があり、高齢者だけでなく地域の多世代の交流の場としての活用を検討していく必要がある。						
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域サロン等の地域活動の拠点として、高齢者だけでなく、地域の多世代の交流の場としての活用を検討していく必要がある。						
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 多世代交流の場として利用が始まっている施設もあり、今後、5年間で同様の取組を他の施設においても行われるようにしたい。						

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・施設の有効活用を検討してください。
------	-------------------------	--------------------

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	老人憩の家事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	①	老人憩の家管理事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和54年度	終了(予定)年度	—		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<b>【対象者】</b> 満60歳以上の市民 <b>【内容】</b> 地域の高齢者の交流及び憩いの場所として、適切な環境整備、運営管理を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 施設を幅広い用途で活用してもらうことで、地域での交流を深めてもらう。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	2,412	2,265	2,286	2,228	2,105
		決算	2,067	1,770	1,798	1,674	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1) 光熱水費						563 千円	
(2) 老人憩の家管理委託						490 千円	
(3) 放送受信料						270 千円	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
施設利用者数	人	見込	4,500	6,000	6,500	7,000	7,500
		実績	6,013	6,408	7,177	7,602	
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<b>【各施設の年間利用者数】</b>			楓老人憩の家：1,458人 色金老人憩の家：376人 茜老人憩の家：2,169人 老人憩の家永和荘：940人 睦老人憩の家：682人 老人憩の家椿荘：1,092人 老人憩の家さつき荘：885人				

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

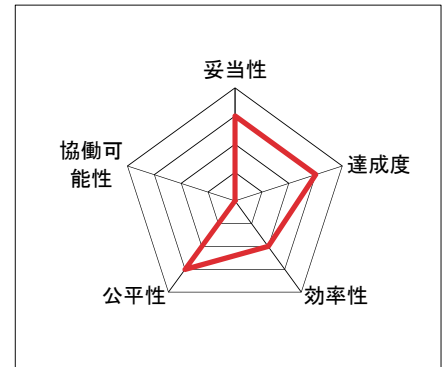
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
まちづくり協議会、地区社協の設立等、地域における世代を超えた繋がり、取組が広がっており、老人憩の家も多世代が利用、交流できる活用が求められている。

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
2,228 千円 2,105 千円 Δ 123 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】
施設利用の対象を高齢者だけではなく、地域の交流の場として、多世代が多様な目的に利用できるようにする。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
利便性を高めるため、網戸の設置や、物置の設置を行った。また、サークルやサロン、市の事業を開催し、交流の場として活用できるようにした。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	—



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
施設管理委託事業のため。				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
シニアクラブがクロリティ(輪投げ)に取り組んでおり、各施設で実施した。保育園児を招待しての体験交流会を実施した施設もある。

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
施設利用の対象を高齢者だけではなく、地域の交流の場として、多世代が多様な目的に利用できるようにする。

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**